

# 伊丹市環境基本計画（第3次）（改訂版） 令和5（2023）年度 年次報告書 概要版

地域循環共生事業「海の森プロジェクト」



## ■ 伊丹市環境基本計画（第3次）の趣旨

伊丹市では、2003年3月に市民が健康で文化的な生活を営むことのできる良好な環境を確保し、地球環境の保全に貢献することを目的とした「伊丹市環境基本条例」を制定し、環境の保全と創造を推進していくための基本理念などを決めました。

これを受けて2004年3月には、環境の保全と創造に関する施策や取組を総合的・計画的に示した「伊丹市環境基本計画（第1次）」を策定しました。

「伊丹市環境基本計画（第3次）」は、前計画（第2次）の計画期間終了に伴い、2021年度よりスタートした「第6次伊丹市総合計画」の政策内容を踏まえ策定したものです。

本報告書は、本計画の進行管理を目的として毎年度作成するものです。なお、本編についてはグリーン戦略室ホームページにてご覧いただけます。

## ■ 計画期間

本計画は2028年度を目標年度としています。

なお、本計画は、社会情勢や国の動向の変化に対応できるよう、計画策定から原則として4年後に中間見直しを行う予定です。

項目\年度	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
環境基本計画（第3次）	策定	➡	改定	➡					

## 気候変動の緩和策

### 本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 単年度目標達成！

地球温暖化防止に関する体験型環境イベントの開催や市広報媒体を活用した啓発等を行いました。また、伊丹市ゼロカーボンシティ宣言に基づく5つの取組方針に従い、公共施設への太陽光パネルの設置や公用車へのEVの導入、再生電力の調達等を行いました。



体験型環境イベント  
「Save the future  
いたみ in 昆陽池公園」



※この項目は、実績値が目標値を下回ることが望ましい。

気候変動  
気候変動に対応するまち

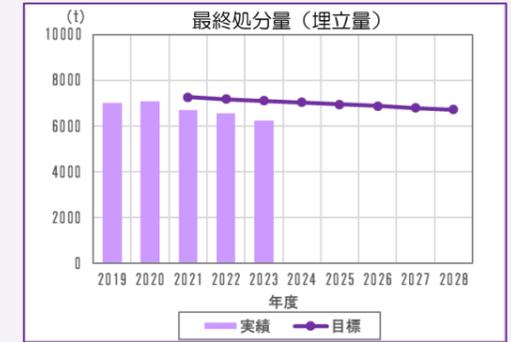
## 食品ロスの削減

### 最終処分量（埋立量） 単年度目標達成！

市内スーパーと連携して市のマスコットキャラクターたみまるデザインのてまえどり啓発物品（レールポップ・ポスターなど）を掲示する活動を10月の食品ロス月間に行いました。



てまえどりの啓発



※この項目は、実績値が目標値を下回ることが望ましい。

循環型社会  
資源が循環する  
環境に配慮したまち

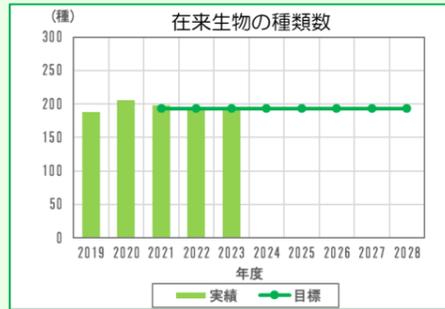


伊丹市マスコット  
たみまる

## 生物多様性の保全

### 在来生物の種類数 単年度目標達成！

昆陽池公園等において、市民団体や事業者との協働による生物多様性の保全・再生活動に取り組みました。



※この項目は、実績値が目標値を上回ることが望ましい。



昆陽池公園での  
生物多様性の  
保全・再生活動

自然共生・生物多様性  
自然環境と共生し  
生物多様性が保全されるまち

人づくり  
環境意識と協働の輪が  
広がるまち

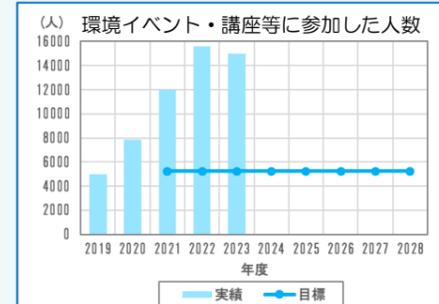
## 多様な主体が連携協力する 体制の推進

伊丹市、飯南町、阪南市が連携し、地域特性を踏まえたカーボンクレジットの創出・活用を通じて、各地域課題の解決とともに、環境と経済の好循環を生み出す「地域循環共生事業」に着手しました。



地域循環共生事業の連携協定締結式

### 環境イベント・講座 等に参加した人数 単年度目標達成！



※この項目は、実績値が目標値を上回ることが望ましい。

## 都市環境

良好な都市空間の整備と  
生活環境が保全されるまち

## 生活環境の保全

### 環境基準達成率 単年度目標達成！

水質、騒音・振動調査及び大気汚染状況、航空機騒音の常時監視を実施し、その調査結果をホームページにて公表しました。



※この項目は、実績値が目標値を上回ることが望ましい。

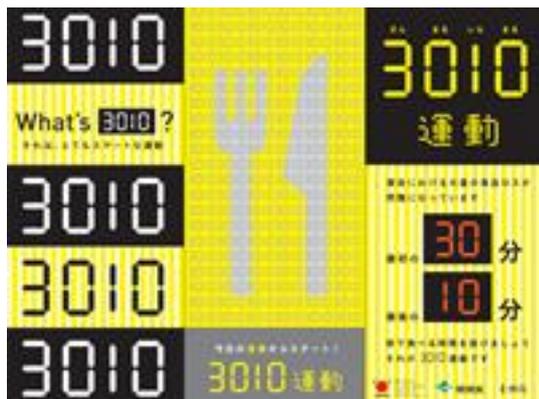
公共用水域  
水質調査



## 【循環型社会】 資源が循環する環境に配慮した まち

ごみの発生抑制・再使用の推進

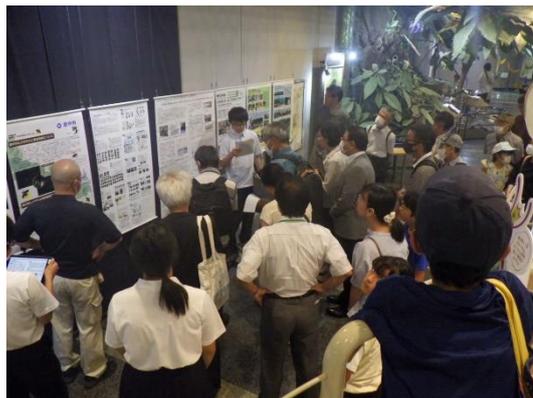
6月の環境月間・10月の食品ロス削減月間に加えて12月の宴会シーズンに合わせてごみ減量化について広報活動を行います。



## 【自然共生・生物多様性】 自然環境と共生し生物多様性が 保全されるまち

生物多様性に関する正しい知識の普及

伊丹市昆虫館において、特別展や企画展等を通じて生物多様性に係るさまざまな展示普及活動を推進します。



## コラム 令和5（2023）年度のできごと

### 脱炭素社会の実現に向け電気バスを試験導入

伊丹市交通局は、将来の世代も安心して暮らせる持続可能な社会、脱炭素社会の実現に向け、電気バス2両を導入し、令和5年5月から試験運行を開始しました。実際の航続距離やエネルギーコスト、車両整備費用などについて検証するため、走行距離の長い路線や短い路線、発車や停車の多い路線や少ない路線など、走行環境の違いによる電力消費量に加え、夏場、冬場の冷暖房の使用の違いによる電力消費量などについて、年間を通じてデータ収集し、最適な充電量や充電時間などを分析しています。



#### 電気バスのイベント展示

令和5年11月に昆陽池公園で実施した体験型環境イベント「Save the future いたみ in 昆陽池公園」で電気バスが展示され、記念撮影や乗車体験等にぎわいました。